

SANNIX

for Energy, for Environment

Photovoltaic Solution

Total Sanitation

Environmental Resources Development

2017年3月期 第3四半期 決算説明会

株式会社サニックス

2017年 2月14日

1. 2017年3月期 第3四半期 決算概況 P.3

2. 2017年3月期 通期 業績見通し P.13

【免責事項】

本資料には、将来の業績予測に関する記述が含まれています。こうした将来の業績予測に関する記述は、将来業績を保証することを意図するものではなく、一定の前提条件と経営陣の現時点で入手可能な情報による判断に基づくものです。従いまして、以下の要因をはじめとする様々な要因により、将来時点における実際の収益及び業績は、業績予測に関する記述と大きく異なる可能性があります。

日本の景気動向、「再生可能エネルギーの固定買取制度」の動向および当該制度に関わる電力会社の動向、他の業者との競争環境、技術革新、規制環境、法律環境及びその他の当社の予測を超える様々な要因。

本資料は当社が発行する証券への投資を勧誘することを企図した資料ではありません。本資料に含まれる情報に基づいて発生した損失・債務に関して、当社は一切の責任を負わない旨をご了承下さい。

(注)

- ・ 数値については、単位未満を切り捨てて表示しております。
- ・ 営業利益、経常利益、当期純利益の”△”表記は、それぞれ営業損失、経常損失、当期純損失を表します。
- ・ 比率がマイナスあるいは1000%を超える値の場合「－」で表示しております。



for Energy, for Environment
Photovoltaic Solution
Total Sanitation
Environmental Resources Development

1. 2017年3月期 第3四半期 決算概況

第3四半期 連結決算概況

(単位：百万円)

	2016/3期 3Q 累計	2017/3期 3Q累計				
	実績	実績	前年同期比	前年同期差異	11/10 計画	計画差異
売上高	45,912	36,633	79.8%	Δ 9,278	35,278	+ 1,355
売上総利益	9,497	10,482	110.4%	+ 985	9,879	+ 603
(売上高売上総利益率)	20.7%	28.6%			28.0%	
営業利益	Δ 2,857	674	—	+ 3,532	166	+ 508
(売上高営業利益率)	—	1.8%			0.5%	
経常利益	Δ 2,709	452	—	+ 3,161	152	+ 300
(売上高経常利益率)	—	1.2%			0.4%	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	Δ 3,492	51	—	+ 3,544	Δ 272	+ 323
(売上高四半期純利益率)	—	0.1%			—	

①売上高 当第3四半期連結累計期間における売上高は、太陽光発電事業における環境の変化、市場の縮小による影響は避けられず、SE(ソーラー・エンジニアリング)事業部門が大幅な減収となった。この結果、グループ全体の売上高は36,633百万円(前年同期比20.2%減)となった。

②利益 SE事業部門の減収幅が大きかったものの、経営合理化等の取組みによる経費圧縮や材料等の原価低減などにより、売上総利益率が改善するとともに販売費及び一般管理費が大幅に減少し、当第3四半期連結累計期間において、それぞれの利益段階で黒字化した。この結果、グループ全体の損益は、674百万円の営業利益(前年同期は2,857百万円の営業損失)、452百万円の経常利益(前年同期は2,709百万円の経常損失)、希望退職者募集に係る特別退職金等の早期希望退職関連費用177百万円を特別損失として計上したため51百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益(前年同期は3,492百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となった。

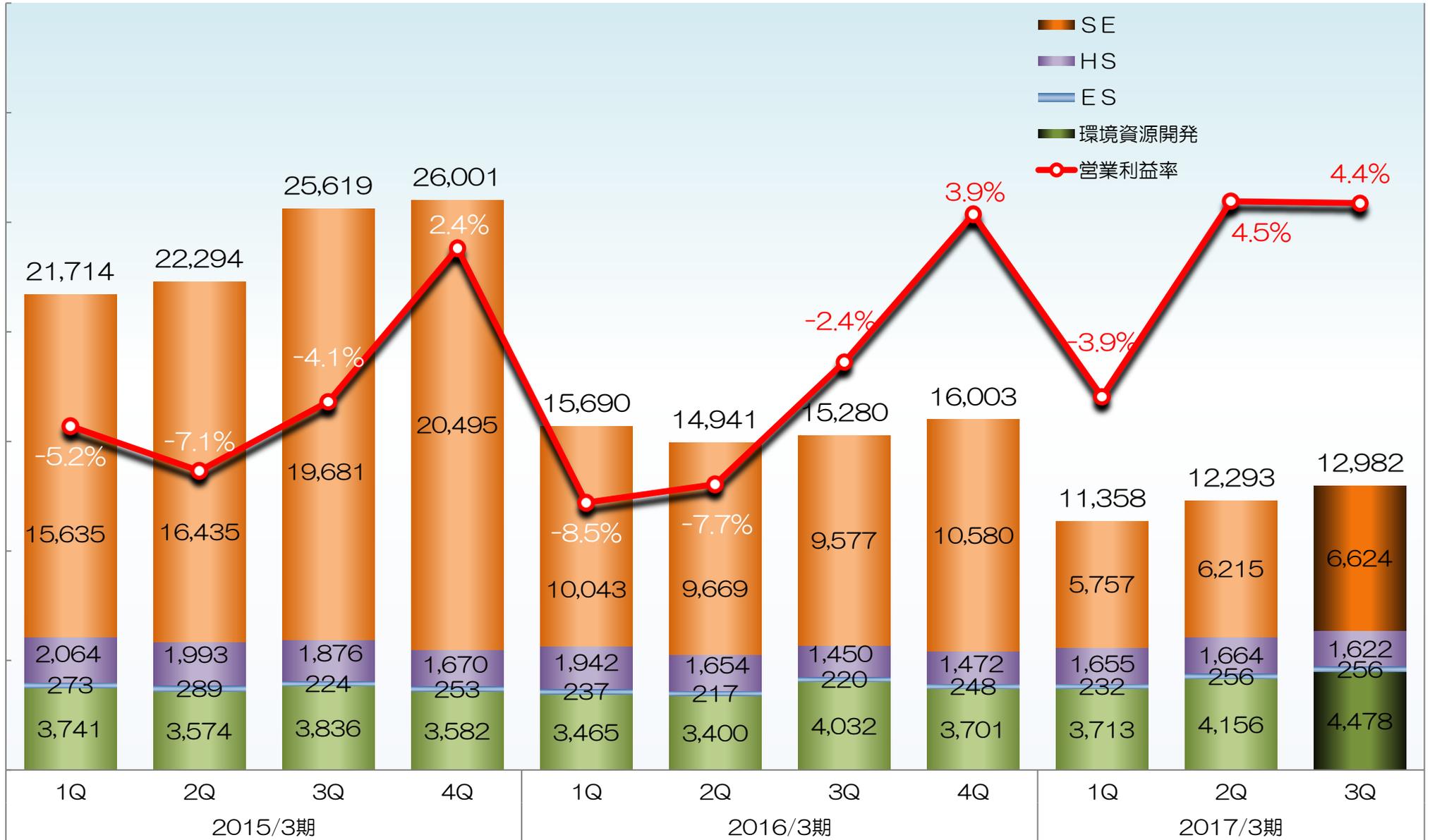
第3四半期 セグメント別損益実績

	2016/3期 3Q累計		2017/3期 3Q累計				
	実績	売上比	実績	売上比	前年同期比	計画差異	計画売上比
売上高	45,912		36,633		79.8%	+ 1,355	
SE部門	29,290	63.8%	18,597	50.8%	63.5%	+ 1,051	49.7%
HS部門	5,047	11.0%	4,941	13.5%	97.9%	+ 87	13.8%
ES部門	675	1.5%	746	2.0%	110.5%	+ 20	2.1%
環境資源開発部門	10,899	23.7%	12,348	33.7%	113.3%	+ 196	34.4%
売上総利益	9,497	20.7%	10,482	28.6%	110.4%	+ 603	28.0%
販売費・一般管理費	12,354	26.9%	9,808	26.8%	79.4%	+ 94	27.5%
営業利益	△ 2,857	—	674	1.8%	—	+ 508	0.5%
SE部門	△ 1,349	—	1,247	(6.7%)	—	+ 387	(4.9%)
HS部門	547	(10.9%)	767	(15.5%)	140.0%	+ 36	(15.1%)
ES部門	32	(4.8%)	55	(7.4%)	170.5%	+ 7	(6.6%)
環境資源開発部門	191	(1.8%)	678	(5.5%)	354.7%	+ 70	(5.0%)
配賦不能	△ 2,279	—	△ 2,073	—	—	+ 6	—

・各セグメントの営業利益の売上比は、各セグメントの売上高に対する比率を()内に表示しております。

セグメント別売上高の推移

(単位：百万円)



第3四半期 セグメント別実績【SE事業部門】

(単位：百万円)

	2016/3期 3Q累計		2017/3期 3Q累計				
	実績	売上比	実績	売上比	前年同期比	計画差異	計画売上比
売上高合計	29,290		18,597		63.5%	+ 1,051	
太陽光発電システム							
施工売上	24,751	84.5%	17,177	92.4%	69.4%	+ 886	92.8%
西日本	15,049	51.4%	10,895	58.6%	72.4%	+ 665	58.3%
東日本	9,701	33.1%	6,281	33.8%	64.8%	+ 220	34.5%
卸販売	4,459	15.2%	1,338	7.2%	30.0%	+ 167	6.7%
その他	79	0.3%	81	0.4%	102.7%	△ 1	0.5%
売上原価	24,161	82.5%	13,065	70.3%	54.1%	+ 567	71.2%
うち、材料費等※	16,696	57.0%	9,064	48.7%	54.3%	+ 371	49.5%
うち、労務費	3,740	12.8%	1,759	9.5%	47.0%	+ 32	9.8%
売上総利益	5,128	17.5%	5,531	29.7%	107.9%	+ 484	28.8%
販売費・一般管理費	6,478	22.1%	4,284	23.0%	66.1%	+ 96	23.9%
うち、人件費	2,882	9.8%	1,599	8.6%	55.5%	+ 50	8.8%
その他	3,595	12.3%	2,684	14.4%	74.7%	+ 46	15.0%
営業利益	△ 1,349	—	1,247	6.7%	—	+ 387	4.9%

※材料費等は、材料費と消耗品費を合算しております。

太陽光発電事業における市場環境の収縮により、産業用太陽光発電の施工件数は減少し「太陽光発電システム施工売上」が前年同期比30.6%減となり、「太陽光発電システム卸販売」が70.0%減となった。この結果、売上高は18,597百万円(前年同期比36.5%減)となった。

営業損益は、大幅な減収となったものの、経営合理化等による人件費及び経費削減や太陽光モジュールなど材料等の原価低減を推し進めたことにより、大幅な増益となり、1,247百万円の営業利益(前年同期は1,349百万円の営業損失)となった。

【参考】SE事業部門損益の四半期推移

(単位：百万円)

	2017/3期							
	1Q		2Q		3Q		3Q累計	
	実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比
売上高	5,757		6,215		6,624		18,597	
売上原価	4,269	74.2%	4,428	71.3%	4,367	65.9%	13,065	70.3%
材料費等※	2,916	50.7%	3,152	50.7%	2,995	45.2%	9,064	48.7%
労務費	707	12.3%	555	8.9%	496	7.5%	1,759	9.5%
外注加工費	152	2.6%	245	4.0%	340	5.1%	738	4.0%
その他	492	8.6%	475	7.7%	534	8.1%	1,503	8.1%
売上総利益	1,487	25.8%	1,786	28.7%	2,257	34.1%	5,531	29.7%
販売費・一般管理費	1,556	27.0%	1,332	21.4%	1,395	21.1%	4,284	23.0%
人件費	584	10.2%	503	8.1%	511	7.7%	1,599	8.6%
その他	971	16.9%	829	13.4%	883	13.3%	2,684	14.4%
営業利益	△ 68	—	453	7.3%	861	13.0%	1,247	6.7%

※ 材料費等は、材料費と消耗品費を合算しております。

SE事業部門の収益性等の状況

■ 限界利益率・損益分岐売上高の推移

売上高に占める変動費(材料費・外注加工費・運賃等)を引いた利益率を限界利益率として表示。

	2016/3期			2017/3期			
	上半期	下半期	通期	上半期 実績	3Q 実績	3Q 累計 実績	3Q 累計 計画
限界利益率 (%)	34.7	38.9	36.8	42.8	46.3	44.0	43.6
月平均固定費 (百万円/月)	1,368	1,112	1,240	788	734	770	754
損益分岐売上高 (百万円/月)	3,944	2,858	3,367	1,844	1,586	1,750	1,729

損益分岐売上高…固定費÷限界利益率

■ 固定費及び平均人員数の推移

	2016/3期			2017/3期			
	上半期	下半期	通期	上半期 実績	3Q 実績	3Q 累計 実績	3Q 累計 計画
労務費・人件費 (百万円/月)	789	578	684	391	335	373	363
平均人員数	1,756 名	1,213 名	1,485 名	820 名	676 名	772 名	803 名
その他固定費 (百万円/月)	578	534	556	396	398	397	390

第3四半期 セグメント別実績【HS・ES事業部門】

(単位：百万円)

【HS事業部門】	2016/3期 3Q累計		2017/3期 3Q累計				
	実績	売上比	実績	売上比	前年同期比	計画差異	計画売上比
売上高	5,047		4,941		97.9%	+ 87	
売上総利益	2,543	50.4%	2,501	50.6%	98.3%	+ 49	50.5%
販売費・一般管理費	1,995	39.5%	1,733	35.1%	86.9%	+ 12	35.5%
営業利益	547	10.9%	767	15.5%	140.0%	+ 36	15.1%

HS事業部門は、一般住宅向けに「基礎補修・家屋補強工事」は前年同期比増加したが、「白蟻防除施工」が前年同期比減少した。この結果、売上高は4,941百万円（前年同期比2.1%減）となった。
 営業損益は、減収になったものの経営合理化の推進等により経費削減を進めたことにより、767百万円の営業利益（前年同期比40.0%増）となった。

(単位：百万円)

【ES事業部門】	2016/3期 3Q累計		2017/3期 3Q累計				
	実績	売上比	実績	売上比	前年同期比	計画差異	計画売上比
売上高	675		746		110.5%	+ 20	
売上総利益	242	35.8%	290	38.9%	120.0%	+ 9	38.6%
販売費・一般管理費	209	31.0%	235	31.5%	112.2%	+ 2	32.1%
営業利益	32	4.8%	55	7.4%	170.5%	+ 7	6.6%

ES事業部門は、ビル・マンション等の建物維持保全品目である「防錆機器取付施工」及び「建物防水塗装補修施工」が前年同期比増加した。この結果、売上高は746百万円（前年同期比10.5%増）となった。
 営業損益は、増収になったことを主因として、55百万円の営業利益（前年同期比70.5%増）となった。

第3四半期 セグメント別実績【環境資源開発事業部門】

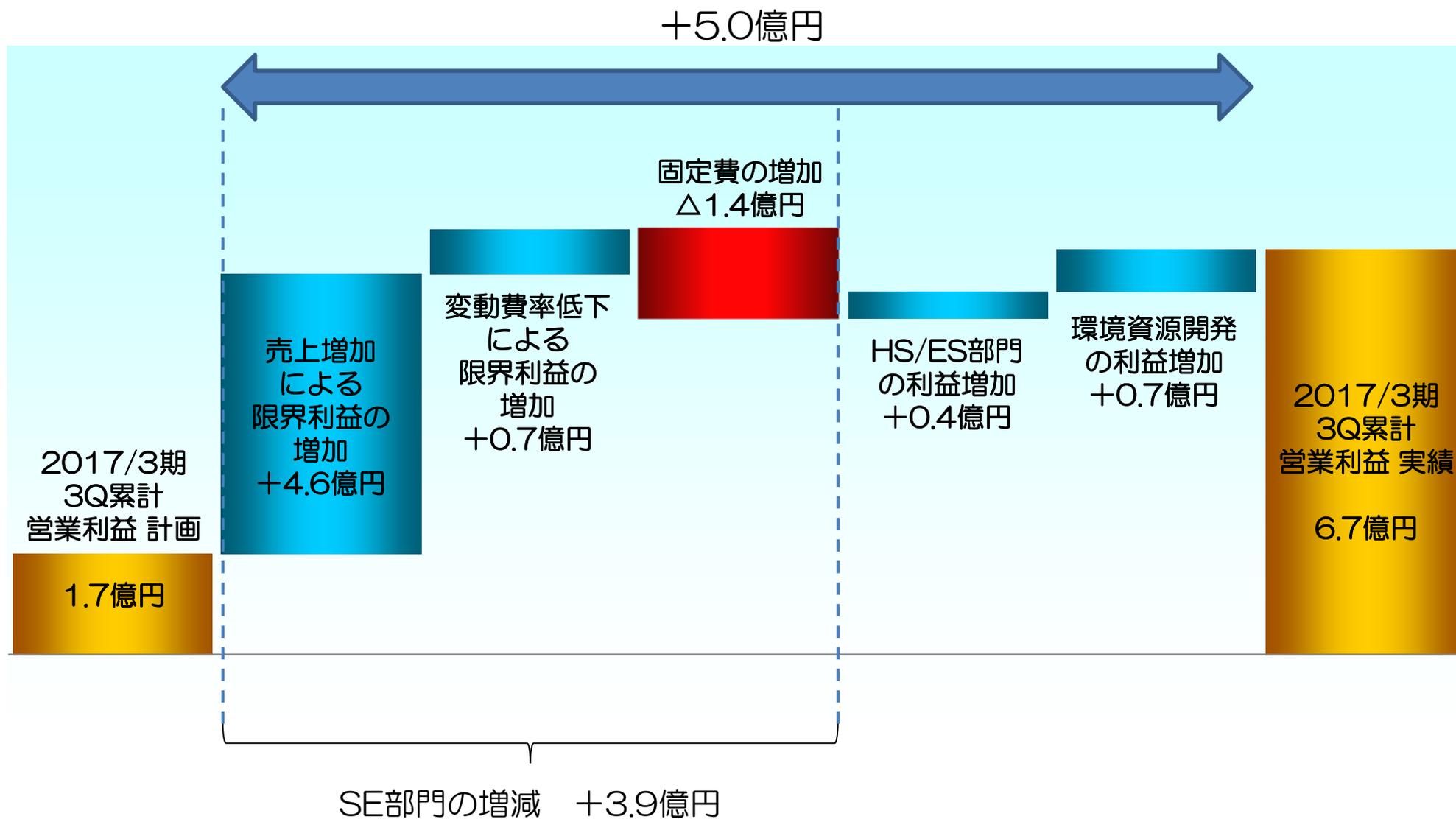
(単位：百万円)

	2016/3期 3Q累計		2017/3期 3Q累計				
	実績	売上比	実績	売上比	前年同期比	計画差異	計画売上比
売上高合計	10,899		12,348		113.3%	+ 196	
プラスチック燃料	5,440	49.9%	5,403	43.8%	99.3%	+ 84	43.8%
売電収入	2,750	25.2%	4,489	36.4%	163.2%	+ 34	36.7%
(うち新電力事業収入)	68	0.6%	1,708	13.8%	-	+ 40	13.7%
有機廃液処理	1,252	11.5%	1,345	10.9%	107.4%	+ 27	10.9%
埋立処理	607	5.6%	534	4.3%	87.9%	+ 2	4.4%
その他	847	7.8%	576	4.7%	68.0%	+ 47	4.4%
売上総利益	1,583	14.5%	2,159	17.5%	136.4%	+ 60	17.3%
販売費・一般管理費	1,391	12.8%	1,481	12.0%	106.4%	Δ 10	12.3%
営業利益	191	1.8%	678	5.5%	354.7%	+ 70	5.0%

環境資源開発事業部門は、「プラスチック燃料」は、定期物件を中心に受入単価の引き上げを進めたことにより廃プラスチック類の受入量は減少したものの、前年同期並みの売上高を確保した。また「売電収入」は、新電力（PPS）事業における高圧需要家向け販売件数が大きく伸びたことにより、前年同期比63.2%増となった。この結果、売上高は12,348百万円（前年同期比13.3%増）となった。

営業損益は、廃プラスチック類の受入単価の見直しを実施したことや、苫小牧発電所の点検費・修繕費等のコストが減少したこと、「有機廃液処理」の受入量が増加したこと等により、売上総利益率が改善し、678百万円の営業利益（前年同期比254.7%増）となった。

【参考】営業利益 増減理由 (3Q累計実績 対 計画)





for Energy, for Environment
Photovoltaic Solution
Total Sanitation
Environmental Resources Development

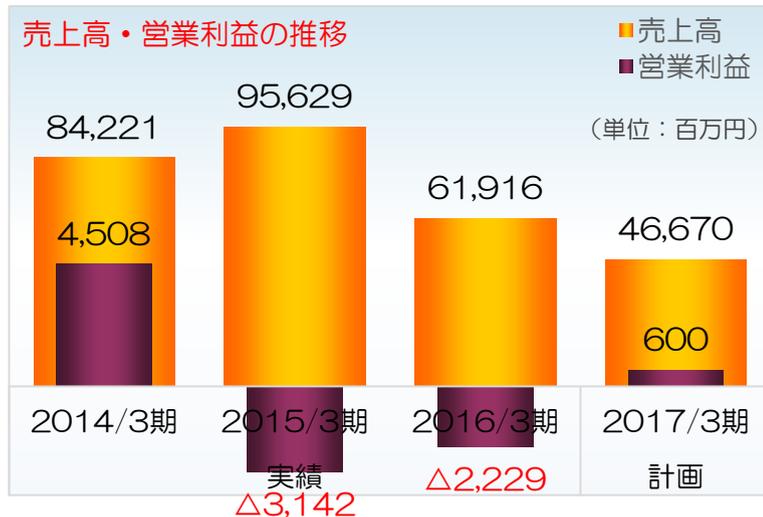
2. 2017年3月期 通期 業績見通し

2017年3月期 通期連結業績見通し

平成28年11月10日に公表した通期業績見通しに変更はありません。

(単位：百万円)

	2016/3期	2017/3期		
	実績	計画	前期比	前期差異
売上高	61,916	46,670	75.4%	Δ 15,246
売上総利益	13,783	13,355	96.9%	Δ 428
(売上高売上総利益率)	22.3%	28.6%		
営業利益	Δ2,229	600	—	+ 2,829
(売上高営業利益率)	—	1.3%		
経常利益	Δ1,949	480	—	+ 2,429
(売上高経常利益率)	—	1.0%		
親会社株主に帰属する 当期純利益	Δ4,604	Δ60	—	+ 4,544
(売上高当期純利益率)	—	—		



【通期業績見通しの据え置きについて】

当社は、昨年4月に発表しました中期経営計画のもと、構造改革の途上であり、期初に立てた諸施策を着実に推し進めています。

第3四半期累計期間において営業利益は通期計画を上回っておりますが、これら改革の実行状況を見定め、合理的に数値が見積れるまで、通期業績予想は据え置きといたします。

2017年3月期 セグメント別業績見通し

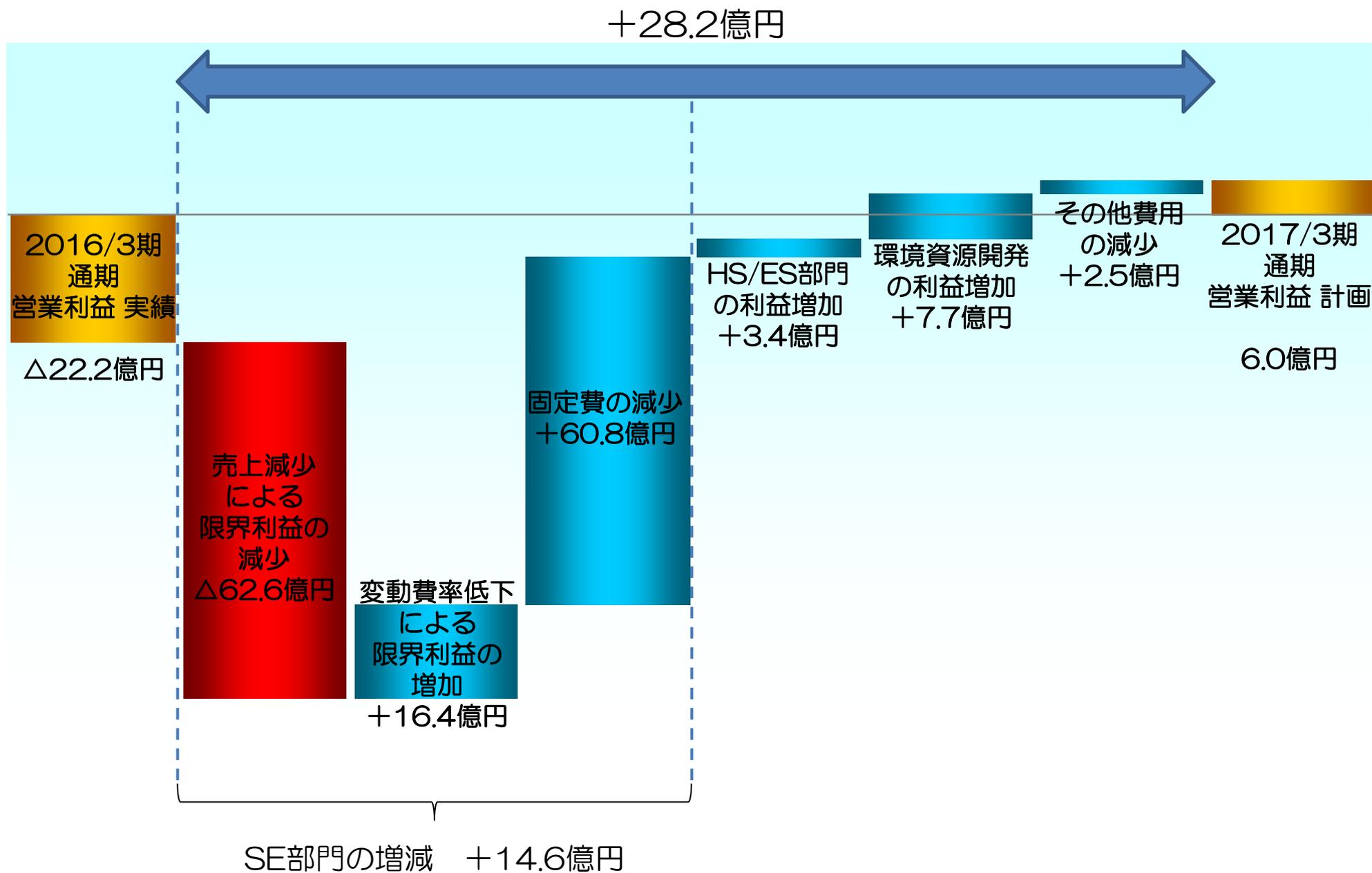
平成28年11月10日に公表した通期業績見通しに変更はありません。

(単位:百万円)

	2016/3期		2017/3期			
	実績	売上比	計画	売上比	前期比	前期差異
売上高	61,916		46,670			Δ 15,246
S E 部門	39,871	64.4%	22,880	49.0%	57.4%	Δ 16,991
H S 部門	6,519	10.5%	6,400	13.7%	98.2%	Δ 119
E S 部門	924	1.5%	966	2.1%	104.5%	+ 41
環境資源開発部門	14,601	23.6%	16,424	35.2%	112.5%	+ 1,822
売上総利益	13,783	22.3%	13,355	28.6%	96.9%	Δ 428
販売費一般管理費	16,013	25.9%	12,755	27.3%	79.7%	Δ 3,258
営業利益	Δ2,229	—	600	1.3%	—	+ 2,829
S E 部門	Δ202	—	1,258	(5.5%)	—	+ 1,460
H S 部門	614	(9.4%)	954	(14.9%)	155.2%	+ 339
E S 部門	53	(5.8%)	62	(6.4%)	114.9%	+ 8
環境資源開発部門	282	(1.9%)	1,051	(6.4%)	372.4%	+ 768
配賦不能	Δ2,977	—	Δ2,725	—	—	+ 252
経常利益	Δ1,949	—	480	1.0%	—	+ 2,429
親会社株主に帰属する 当期純利益	Δ4,604	—	Δ60	—	—	+ 4,544

・各セグメントの営業利益の売上比は、各セグメントの売上高に対する比率を()内に表示しております。

【参考】 営業利益 増減理由 (前期実績 対 今期計画)



2017年3月期 セグメント別見通し【SE事業部門】

平成28年11月10日に公表した通期業績見通しに変更はありません。

(単位:百万円)

	2016/3期		2017/3期			
	実績	売上比	計画	売上比	前期比	前期差異
売上高合計	39,871		22,880		57.4%	Δ 16,991
太陽光発電システム						
施工売上	34,419	86.3%	21,349	93.3%	62.0%	Δ 13,070
西日本	20,691	51.9%	13,240	57.9%	64.0%	Δ 7,451
東日本	13,728	34.4%	8,109	35.4%	59.1%	Δ 5,619
卸販売	5,351	13.4%	1,426	6.2%	26.7%	Δ 3,925
その他	99	0.2%	104	0.5%	104.6%	+ 4
売上原価	31,853	79.9%	16,176	70.7%	50.8%	Δ 15,677
うち、材料費等※	22,483	56.4%	11,234	49.1%	50.0%	Δ 11,249
うち、労務費	4,618	11.6%	2,191	9.6%	47.4%	Δ 2,427
売上総利益	8,017	20.1%	6,704	29.3%	83.6%	Δ 1,313
販売費一般管理費	8,220	20.6%	5,446	23.8%	66.2%	Δ 2,774
うち、人件費	3,594	9.0%	2,009	8.8%	55.9%	Δ 1,584
その他	4,626	11.6%	3,436	15.0%	74.3%	Δ 1,189
営業利益	Δ202	—	1,258	5.5%	—	+ 1,460

※材料費等は、材料費と消耗品費を合算しております。

SE事業部門は、太陽光発電事業における厳しい市場環境を踏まえ、売上高は前期に比し大幅な減収の見込みである。利益については、合理化進展により総経費圧縮が実現していることに加え、太陽光発電システムに係る部材のコストダウンにも引き続き取り組むことで、通期の営業利益は前期に比し大幅に増加し、黒字化する見込みである。

2017年3月期 セグメント別見通し【HS・ES事業部門】

平成28年11月10日に公表した通期業績見通しに変更はありません。

(単位:百万円)

【HS事業部門】	2016/3期		2017/3期			
	実績	売上比	計画	売上比	前期比	前期差異
売上高合計	6,519		6,400		98.2%	△ 119
売上総利益	3,255	49.9%	3,222	50.3%	99.0%	△ 33
販売費一般管理費	2,640	40.5%	2,268	35.4%	85.9%	△ 372
営業利益	614	9.4%	954	14.9%	155.2%	+ 339

HS事業部門は、顧客管理を拡充する中で、一般住宅向け「白蟻防除施工」「基礎補修工事」等のメンテナンス業務の再強化を図る一方、ES事業でノウハウを培った「排水管高圧洗浄」等の新商品も投入しており、前期並みの売上高を見込む。

営業利益については、合理化進展による販売費及び一般管理費の減少により、前期に比し増益を見込む。

(単位:百万円)

【ES事業部門】	2016/3期		2017/3期			
	実績	売上比	計画	売上比	前期比	前期差異
売上高合計	924		966		104.5%	+ 41
売上総利益	332	35.9%	374	38.7%	112.6%	+ 41
販売費一般管理費	278	30.1%	312	32.3%	112.1%	+ 33
営業利益	53	5.8%	62	6.4%	114.9%	+ 8

ES事業部門は、ビル・マンション等の「防錆機器取付施工」や事業所向けPC（ペストコントロール）業務等について、既存顧客の掘り起こしに加え、業務提携等により新規顧客の増加を図ることで、売上高は前期に比し増収を見込む。

営業利益については、増収となることを主因に前期に比し増益を見込む。

平成28年11月10日に公表した通期業績見通しに変更はありません。

(単位:百万円)

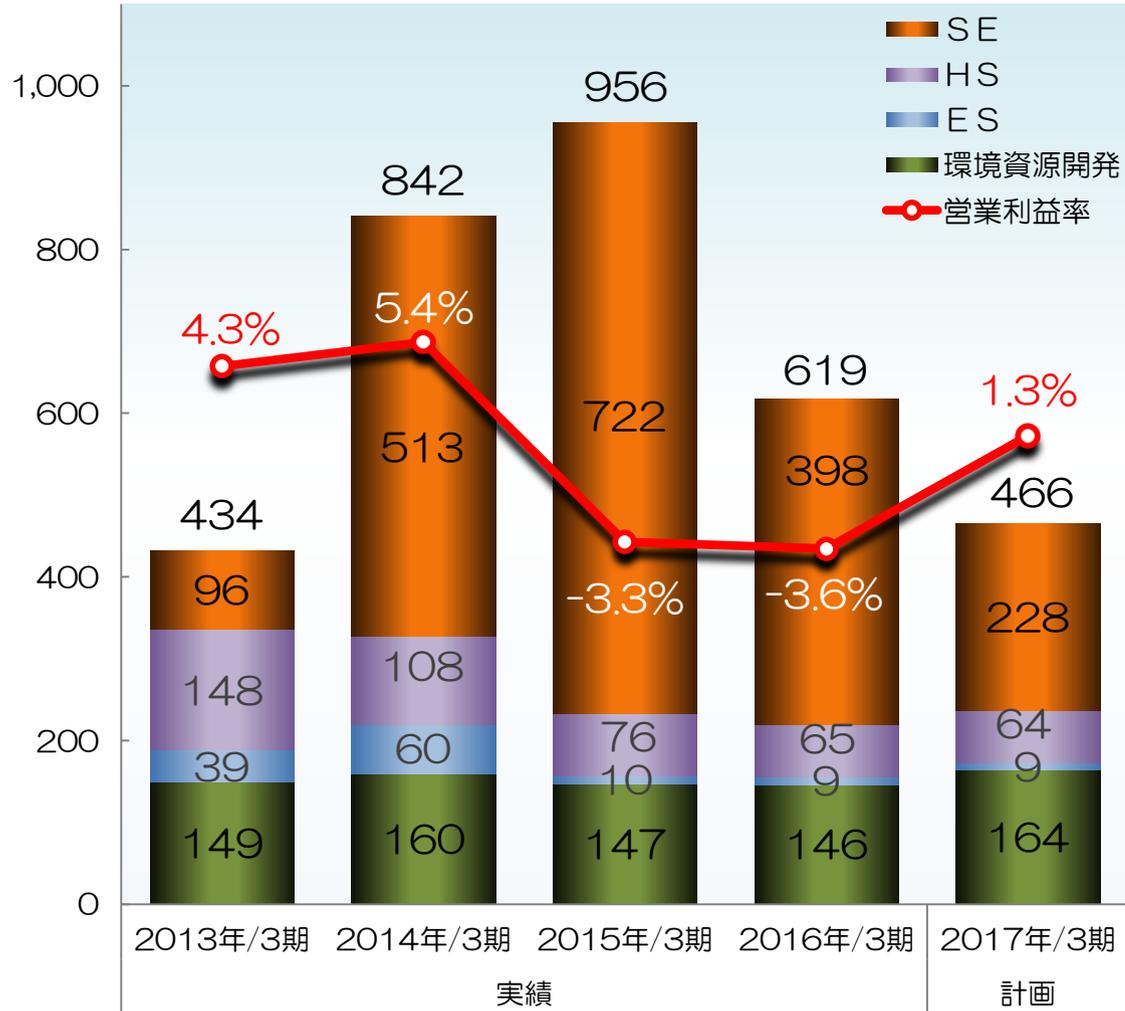
	2016/3期		2017/3期			
	実績	売上比	計画	売上比	前期比	前期差異
売上高	14,601		16,424		112.5%	+ 1,822
プラスチック燃料	7,227	49.5%	7,095	43.2%	98.2%	Δ 131
売電収入	3,986	27.3%	6,335	38.6%	158.9%	+ 2,348
（うち新電力事業収入）	247	1.7%	2,443	14.9%	987.7%	+ 2,195
有機廃液処理	1,604	11.0%	1,717	10.5%	107.0%	+ 112
埋立処理	702	4.8%	621	3.8%	88.4%	Δ 81
その他	1,080	7.4%	655	4.0%	60.6%	Δ 425
売上総利益	2,177	14.9%	3,055	18.6%	140.3%	+ 877
販売費一般管理費	1,895	13.0%	2,004	12.2%	105.7%	+ 108
営業利益	282	1.9%	1,051	6.4%	372.4%	+ 768

環境資源開発事業部門は、苫小牧発電所及び2015年10月から開始した新電力(PPS)事業の売上高増加により、「売電収入」が大幅に増加し、また受入増量により「有機廃液処理」が増加し、売上高は前期に比し増加することを見込む。収益性については、苫小牧発電所において稼働率の向上や定期修繕等に係る修繕費の減少により増益となること、「有機廃液処理」において受入量が増加すること等により、売上総利益率が改善することを見込む。この結果、営業利益については、新電力(PPS)事業に係る販売費及び一般管理費が増加するものの、前期に比し大幅な増益を見込む。

平成28年11月10日に公表した通期業績見通しに変更はありません。

■2017年3月期セグメント別売上高・営業利益率の見通し

(売上高：億円)



2017年3月期見通し

売上高：**46,670**百万円

営業利益：**600**百万円

営業利益率：**1.3%**

・2014/3期までの実績については、SE事業部門は旧産業用PV部門の実績であり、HS・ES事業部門は太陽光発電システムの実績を含めて表示しております。